

# 9 月月例労働経済報告のポイント

## 一般経済

- 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している。
  - ・生産は、サプライチェーンの立て直しにより、持ち直している。輸出は、持ち直しの動きがみられる。
  - ・企業収益は、減少している。設備投資は、下げ止まりつつある。
  - ・企業の業況判断は、東日本大震災の影響による厳しさが残るなど、慎重さがみられる。
  - ・雇用情勢は、東日本大震災の影響により、このところ持ち直しの動きに足踏みがみられ、依然として厳しい。
  - ・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。
  - ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。
- 先行きについては、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、回復力の弱まっている海外景気が下振れた場合や為替レート・株価の変動等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

## 労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、東日本大震災の影響により、このところ持ち直しの動きに足踏みがみられ、依然として厳しい。
  - ・ 7月の完全失業率（季節調整値）は4.7%で、2か月連続で前月差で悪化（0.1ポイント悪化）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
  - ・ 就業者数（季節調整値）は5,959万人で、2か月ぶりに前月差で減少（4万人減）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
  - ・ 雇用者数（季節調整値）は5,213万人で、3か月ぶりに前月差で減少（44万人減）。※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く全国値。
  - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.64倍（前月差0.01ポイント改善）。
  - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.07倍（前月差0.07ポイント改善）。
  - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は367,362円で、前年同月比0.2%減。